

新たな歴史に向かって

鳳エリア建替え運動の道 ⑬

鳳クリニック建て替えに寄せて



私は1992年に耳原鳳病院に新卒事務として就職しました。特に心に残っている医療活動は、友の会の方々の班会、糖尿病グループの患者

私は1992年に耳原鳳病院に新卒事務として就職しました。特に心に残っている医療活動は、友の会の方々の班会、糖尿病グループの患者

まで耳原鳳病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務しました。

受診や生活に関する相談に対応し、回復期リハビリ病棟や療養型病棟の相談も担当してまいりました。リハビリ医療の現場で、障害を受けとめながら生活を再建していく患者さんやご家族の姿を目の当たりにし、民医連の病院や診療所が困難を抱える患者さんを力強く支援する姿勢に深い感銘を受けたことを今でも鮮明

に覚えていきます。

また、被爆者の方々の後遺障害への医療相談や、集団就職を経て関西にいられた水保病棟の方々のお話を直接伺う機会もありました。教科書で学んだ社会問題が、目の前の患者さんの生活に今なお大きな影響を与えていることを痛感しました。

した。患者さんお一人おひとりの受け止め方は様々でしたが、皆さんご協力いただけ、大きな問題なく移転が完了したときには、胸を撫で下ろしたことを今でも思い出します。

そしてこの度、20年ぶりに老健みみはらの相談員として7月より戻ってまいりました。鳳クリニックの建て替えが、鳳地域の住民の皆さんに安心を届けられることを心より願っています。

（介護老人保健施設みみはら相談員 松本 昌広）

介護事業部

カスタマーハラスメント

学習会を開催

本来、カスタマーハラスメント（通称：カスハラ）とは、暴行・脅迫・暴言・社会通念上不相当な要求といった、利用者やご家族からの理不尽で著しい迷惑行為のことを指します。



講師の辰巳創史氏

今回、介護事業部では、はじめて顧問弁護士の辰巳創史氏を講師に迎え、

（介護事業部 ケアマネジャー 吉川 真帆）

職員対象のストレスチェックアンケート実施報告

自らのストレス状況に気づき、セルフケアに役立てよう

7月17日～8月7日にストレスチェックを実施しました。ストレスチェックは、自らのストレス状況に気づき、セルフケアに役立てるためのもの

いつもと違う自分に気づこう：ストレスサイン

Table with 3 columns: からだ (Body), ところ (Place), 行動 (Action). Lists symptoms like shoulder pain, irritability, and lifestyle changes.

です。

同仁会では、ストレスチェック後に、産業医による面接や保健師の健康相談、産業カウンセラーによるカウンセリングな

自分をいたわる「ゆったり呼吸」

深くゆっくりと呼吸をすると、副交感神経の働きが高まります。血行が良くなり、心身がリラックスできます。

ども、職員が利用できるよう案内しています。

厚生労働省の調査によると、仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者

は8割を超えているそうです。ストレスの内容として、「仕事の量」「仕事の質」「対人関係」が一般的にはあげられますが、医療・介護従事者には「命にかかわる仕事であること」、「膨大な知識技術の獲得の必要性」などもストレス要因になるでしょう。責任感が強く、細やかな気遣いができる人が多いからこそ、気が付かないうちにストレスを抱えているかもしれません。「こころ」は目に見えませんが、ストレスを感じたときは、自分自身をいたわりましょう。働くうえで、まず自分を大切にすることが一番大切です。

職責者ラインケア研修

職員のメンタルヘルスと健全な職場づくり

産業医の平井医師を講師に迎え、耳原総合病院で2回目の職責者ラインケア研修を開催しました。ラインケア研修は、「職員のメンタルヘルスと健全な職場づくり」を実践するためのカウンセリングに関わる研修として企画されました。

参加者は看護・技術・事務の職責者計30人で、

部下のメンタルヘルスやストレスに気を配り、どのようなサポートを行うか事例検討ディスカッション



ヨンを交えながら学びました。ラインケアの理論的な話からより実践的な話まで幅広く扱われ、同僚に接する姿勢も重要な

テーマとして扱われました。相手に対して「上司としてふさわしいか」「部下としてふさわしいか」という評価的態度ではなく、どうしたら相手が働きやすくなるかな？ 何に困っているのかな？ という、助け合いの気持ちが大切であることを学びました。対話する姿勢を患者さんや利用者さんだけでなく、一緒に働く職員にも向けることの重要性などを教わりました。

「研修医育成」に皆さまの声を 右のQRコードからアンケートへのご協力を願います。(耳原総合病院研修委員会)